

～支援者向け～

自動車運転再開支援 パンフレット

一般社団法人 栃木県作業療法士会

制度対策部 自動車運転支援推進部門

はじめに

栃木県は、自動車普及率97.8%で全国1位、一人当たりの乗用車保有台数は全国2位と、全国有数の「くるま社会」となっています。

一般社団法人栃木県作業療法士会では、平成29年に自動車運転支援検討特設委員会を設置し、現在は制度対策部自動車運転支援推進部門として県内の状況把握や研修会の開催をおこなっています。

平成29年度と令和4年度には自動車運転支援に関する栃木県の実態調査を実施しました。先進県のような支援システムの構築はされていない中ですが、各々の施設で運転再開支援に取り組んでおり、評価シートの作成やドライビングシミュレーターの導入、教習所との連携など、発足当時と比較すると自動車運転再開支援に携わるOTの数も増加している傾向がうかがわれました。

このパンフレットは、栃木県内のOTがより円滑に自動車運転再開支援を行えるよう情報提供することを目的に作成しました。

このパンフレットの使い方

初めて運転再開支援に関わる方、運転再開支援に関する経験が少ない方向けに、法制度など「知っておきたい基礎知識」を掲載しました。

既に運転再開支援に携わっている方、運転再開支援に関する経験が豊富な方は、運転評価シートの一例をあげておりますので、院内での評価、他機関との情報共有等にお役立ていただけると幸いです。

参考文献紹介

- ・「脳卒中・脳外傷者の自動車運転に関する指導指針」日本リハビリテーション医学会
- ・「押さえておきたい！運転再開支援の基礎」一般社団法人日本作業療法士協会 運転と作業療法委員会
- ・「臨床医のための疾病と自動車運転」一杉正仁、武原格（編） 三輪書店
- ・「脳卒中後の自動車運転再開の手引き」武原格、一杉正仁、渡邊修（編） 医歯薬出版株式会社
- ・「高次脳機能障害者の自動車運転再開とリハビリテーション」蜂須賀研二、佐伯覚（編） 金芳堂
- ・「作業療法マニュアル53 認知機能障害に対する自動車運転支援」日本作業療法士協会

目次

1, 知っておきたい交通法規

- ①「一定の病気等に係る免許の可否等の運用基準について」
- ②「普通免許の運転適性基準」
- ③認知症と診断された場合の運転免許について
- ④てんかんについて
- ⑤免許更新時の申告義務について
- ⑥免許取り消しと免許失効に関する対応について

2, 運転再開支援の流れと各機関の役割について

3, 運転能力評価について ①能力評価シートの一例 ②高次脳機能検査

4, 実車運転評価について (教習所との情報交換シートの一例)

5, 運転再開が困難と判断された方への支援について

1, 知っておきたい交通法規

運転再開にはまず、道路交通法における「**運転免許の取り消し・停止の対象となる一定の病気等**」の条件に該当しないことが前提となります。その上で、免許の「**運転適性基準**」に達していることが必要です。（押さえておきたい！運転再開支援の基礎より）

参考資料

- ・ 一定の病気等に係る免許の可否等の運用基準（警察庁交通局運転免許課）
- ・ 自動車等の運転に必要な適性についての免許試験における科目と合格基準

（道路交通法施行規則第23条）

① 「一定の病気等に係る免許の可否等の運用基準について」

平成13年に道路交通法が改正され、

病名により免許を与えない「絶対的欠格事由」が撤廃されました。

一定の病気等に罹っている者は、その症状が自動車等の安全な運転に支障を及ぼすおそれがあるか否かで、個別に判断します。

<一定の病気等とは>

- ・統合失調症
- ・再発性の失神
- ・そううつ病
- ・てんかん
- ・無自覚性の低血糖症
- ・重度の眠気の症状を呈する睡眠障害
- ・その他自動車等の安全な運転に必要な認知、予測、判断又は操作のいずれかに係わる能力を欠くこととなるおそれのある症状を呈する病気

例) 脳卒中 (脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、一過性脳虚血発作等)

- ・認知症
- ・アルコール中毒者等

詳細は、道路交通法施行令第33条の2の3を参照してください。
認知症は道路交通法90条第1項第1号の2、アルコール中毒者等は同法103条第1項を参照してください。

② 「普通免許の運転適性基準」

- **視力**（矯正視力を含む）

両眼で0.7以上、かつ一眼でそれぞれ0.3以上であること。
一眼で0.3に満たない者、もしくは一眼が見えない者については、
他眼の視野が左右150度以上で視力が0.7以上であること。

- **色彩識別能力**

赤色、青色、黄色の識別ができること。

- **聴力**

両耳の聴力（補聴器使用も含む）が10mの距離で、90dBの警音器の音が聞こえること。

上記の聴力はないが、特定後写鏡等の免許条件（免許センターでの臨時適性検査に合格することが必要）を付されたことにより安全な運転に支障を及ぼすおそれがないと認められること。

- **運動能力**

四肢の機能が全廃ではなく、腰をかけている状態が持続できること。

自動車の安全な運転に必要な認知または操作能力があること

（補助手段を用いてもよい）

③ 認知症と診断された場合の運転免許について

※回復しない認知症は「一定の病気」に該当し、診断された時点で免許取り消しの対象となります

- アルツハイマー型認知症
- 血管性認知症
- 前頭側頭型認知症（ピック病）
- レビー小体型認知症

拒否または取り消し

- 上記以外の認知症
(甲状腺機能低下症、脳腫瘍、慢性硬膜下血腫、正常圧水頭症、頭部外傷等)

① 「回復の見込みがない」
または「6ヶ月以内に回復
する見込みがない」と診断

拒否または取り消し

② 「6ヶ月以内に回復する
見込みがある」と診断

その期間の保留または停止

④ てんかんについて

※ 「運転に支障が生じるおそれがある発作が2年間ないこと」が運転再開の条件となります

「薬の服用の有無」は関係ありません（道路交通法施行令第33条の2の3）

ただし、以下のいずれかの場合には免許の拒否等を行われません

- ア) 発作が過去5年以内に起こったことがなく、医師が「今後、発作が起こるおそれがない」旨の診断を行った場合
- イ) 発作が過去2年以内に起こったことがなく、医師が「今後、X年程度であれば発作が起こるおそれがない」旨の診断を行った場合。
- ウ) 医師が、1年間の経過観察の後「発作が意識障害及び運動障害を伴わない単純部分発作に限られ、今後、症状悪化のおそれがない」旨の診断を行った場合。
- エ) 医師が、2年間の経過観察の後「発作が睡眠中に限って起こり、今後、症状悪化のおそれがない」旨の診断を行った場合。

⑤免許更新時の申告義務について

※「一定の病気等」は、運転免許証更新時に症状に関する申告が必要です。

また、運転再開前には公安委員会（運転免許センター）の安全運転相談を受ける必要があります。

- 免許取得、更新時には「**一定の病気等**」を把握するための**質問票**への回答が求められています。
- 虚偽記載には罰則規定（1年以下の拘禁刑または30万円以下の罰金）があります（道路交通法第117条の4）

⑥ 免許取り消しと免許失効に関する対応について

※「**一定の病気**」にかかっていることを理由に運転免許を取り消された者が、その後、病気の回復により運転免許の取得が可能となった場合、**取り消された日から3年以内であれば学科試験および技能試験が免除になります。**（以前に提出した質問票に虚偽記載がない等の一定の条件があります）

- **医師の診断書（公安委員会提出用）が必要**
- **運転に支障をきたすおそれのある障害や症状が改善されていることが条件となる**
- **取り消し処分から3年以内であれば、病前が優良運転者であれば再開時も優良運転者として取り扱われる**

高次脳機能障害や失語症など、長期間のリハビリテーション医療により症状の改善が期待できる患者の場合、上記内容を説明し、リハビリテーション医療を継続することが望まれます。

注：運転免許が失効した場合又は失効するおそれがある場合は、免許センターにお問い合わせください。

2, 自動車運転再開支援の流れと各機関の役割について

【例 ①】

医療機関

インタビュー：本人・家族の希望・自動車運転の必要性などを聴取

評価：身体機能の評価、訓練
高次脳機能障害の評価、訓練
(身体機能・神経心理学的検査・DSなど)

評価のまとめと支援
(医師による結果説明、今後の方針相談)

医師が診断書を作成
(公安委員会提出用)

運転免許センター (安全運転相談)
(運転免許の可否を判断する)

運転停止・免許取り消し

関連法規の確認

「一定の病気等」に該当するか
「普通免許の適性検査基準」

運転再開断念

訓練・再評価

自動車教習所

実車評価 (構内 or 路上)
ペーパードライバー講習など

運転再開 (条件付きの場合あり)

安全運転相談終了後、教習所を利用する場合は医療機関と教習所間で情報交換を行うことが望ましい。

【例 ②】

医療機関

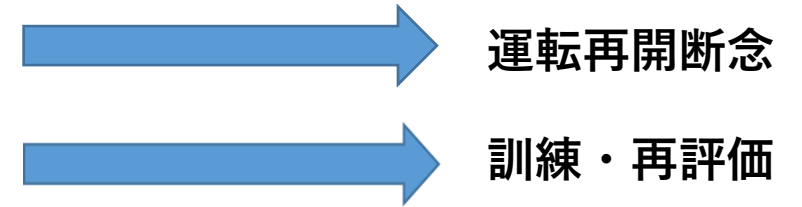
インタビュー：本人・家族の希望・自動車運転の必要性などを聴取

評価：身体機能の評価、訓練
高次脳機能障害の評価、訓練
(身体機能・神経心理学的検査・DSなど)

評価のまとめと支援
(医師による結果説明、今後の方針相談)

関連法規の確認

「一定の病気等」に該当するか
「普通免許の適性検査基準」



医師が診断書を作成
(公安委員会提出用)

実車評価の可否に
ついての事前相談

実車評価の為に教習所を利用する場合、
医療機関から教習所への情報提供を行う。
結果について共有し、意見交換を行う。

運転免許センター (安全運転相談)
(運転免許の可否を判断する)

自動車教習所
実車評価 (構内 or 路上)

運転停止・免許取り消し

運転再開 (条件付きの場合あり)

3, 運転能力評価について

①能力評価シートの一例

次に紹介しているのは運転能力評価シートの一例になります。
運転再開にあたっては身体機能・認知機能の評価に加えて、運転の用途や条件、家族の希望など個人的な要因を踏まえて総合的に判断する必要があります。

総合的な判断にあたっては、
主治医をはじめ他職種と共に検討することが重要です

基本情報	氏名		性別	年齢	生年月日	住所		電話番号	
	疾患名 (部位)			障害名	発症日	既往・併存症			
	服薬情報			てんかんリスク			医師からの説明		
	家族構成 (キーパーソン)		本人意向				家族意向		
	運転ニーズ・用途				次回免許更新		職業	車種	
	よく使う運転ルート・時間帯・条件付けなど								
	①								
	②								
	病前の運転傾向 (過去1年の事故・違反歴あれば記載)						(家族からみた) 性格		
	身体機能	上肢	麻痺	<input type="checkbox"/> 右 <input type="checkbox"/> 左	感覚障害	(表在)	<input type="checkbox"/> 右 <input type="checkbox"/> 左	車の乗り降り	
その他 ()			(深部)	<input type="checkbox"/> 右 <input type="checkbox"/> 左		<input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 要介助			
手指		麻痺	<input type="checkbox"/> 右 <input type="checkbox"/> 左	感覚障害	(表在)	<input type="checkbox"/> 右 <input type="checkbox"/> 左	困難が予想される運転操作		
		その他 ()	(深部)		<input type="checkbox"/> 右 <input type="checkbox"/> 左	<input type="checkbox"/>	ハンドル		
下肢		麻痺	<input type="checkbox"/> 右 <input type="checkbox"/> 左	感覚障害	(表在)	<input type="checkbox"/> 右 <input type="checkbox"/> 左	<input type="checkbox"/>	アクセルペダル	
		その他 ()	(深部)		<input type="checkbox"/> 右 <input type="checkbox"/> 左	<input type="checkbox"/>	ブレーキペダル		
体幹・頸部		麻痺	<input type="checkbox"/> 右 <input type="checkbox"/> 左	感覚障害	(表在)	<input type="checkbox"/> 右 <input type="checkbox"/> 左	<input type="checkbox"/>	クラッチペダル	
	その他 ()	(深部)	<input type="checkbox"/> 右 <input type="checkbox"/> 左		<input type="checkbox"/>	ウインカー			
視力	<input type="checkbox"/> 両目0.7・片目0.3未満 <input type="checkbox"/> 単眼視 <input type="checkbox"/> 複視 <input type="checkbox"/> 視野欠損 (半盲)					<input type="checkbox"/>	長時間の座位保持		
聴力	<input type="checkbox"/> 10mで90デシベル判別不可					<input type="checkbox"/>	その他 ()		

基本情報として、疾患・障害についての情報に加えて運転再開についての家族の考え、運転の用途、病前の運転傾向などを把握します。

身体機能では運動麻痺の状況から困難が予想される運転操作を挙げておきます。視力・聴力は運転免許取得に必要な基準に加え、複視・視野欠損など運転に支障をきたすおそれがある状況をチェックします。



高次脳機能	<input type="checkbox"/> 注意力低下 疑いあり	生活への影響 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 遂行機能低下疑 いあり	生活への影響 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> その他の問題 (病識)
		運転への影響 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 不明		運転への影響 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 不明	
	<input type="checkbox"/> 記憶力低下 疑いあり	生活への影響 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 言語能力低下 疑いあり	生活への影響 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	
		運転への影響 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 不明		運転への影響 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 不明	
	<input type="checkbox"/> 抑制の低下 疑いあり	生活への影響 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 空間認知低下 疑いあり	生活への影響 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	
		運転への影響 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 不明		運転への影響 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 不明	
シミュレーター	運転操作検査 (問題あれば <input checked="" type="checkbox"/>) <input type="checkbox"/> アクセル・ブレーキペダル <input type="checkbox"/> ペダル踏み替え <input type="checkbox"/> ハンドル <input type="checkbox"/> その他				
	単純反応検査				
	選択反応検査				
	ハンドル操作検査				
	注意分配・複数作業検査				
	走行場面（危険予測体験）での様子				
運転への影響予測	<input type="checkbox"/> 急発進・急ブレーキや急なハンドル操作		<input type="checkbox"/> 適切な車間距離を保ちながら運転することができない		※シミュレーターで の評価を実施しない 場合
	<input type="checkbox"/> 集中力が持続できず、長時間の運転が出来ない		<input type="checkbox"/> 指摘に対して修正できない		
	<input type="checkbox"/> 信号、道路標識の認識が遅れる		<input type="checkbox"/> 複雑な指示では混乱しやすい		
	<input type="checkbox"/> 会話しながらの運転が困難		<input type="checkbox"/> 計画的に目的地に到着することができない		
	<input type="checkbox"/> 路肩、左側の歩行者等への確認が不十分（巻き込み）		<input type="checkbox"/> 適切な速度で走行することができない		
	<input type="checkbox"/> （左に限らず）歩行者・他車両への配慮が不十分		<input type="checkbox"/> 状況に合わせて柔軟な対応ができない		
	<input type="checkbox"/> 右折時の歩行者や対向車の確認が不十分		<input type="checkbox"/> 自分の運転に対する自己認識が乏しい		
	<input type="checkbox"/> その他（)				
<input type="checkbox"/> 予測される問題なし					
総合所見				の本人受け止め家族	

高次脳機能検査（次頁を参照）の結果、低下の疑いがあるものについて、生活・運転への影響が疑われるかどうかを評価します。

ドライビングシミュレーターを実施する場合はシミュレーターの結果を示し、シミュレーターを実施しない場合は可能な範囲で運転への影響を予測します。

総合的に判断し、所見を出します。本人・家族に説明する際には「どのように受け止められたか」が重要です。

② 高次脳機能検査

運転再開の可否を判断するためには、複数の神経心理学的検査を組み合わせることが必要です。

日本高次脳機能障害学会による「**脳卒中、脳外傷等により高次脳機能障害が疑われる場合の自動車運転に関する神経心理学的検査法の適応と判断**」を元に作成された評価シートの一例を紹介しています。

活用にあたっては、必ず日本高次脳機能障害学会HPで詳細
(フローチャート)をご確認ください。

<https://www.higherbrain.or.jp/research/driving/>

(日本高次脳機能障害学会HP)

評価内容	検査法	点数	基準値	判定	
①認知症	MMSE または HDS-R	MMSE : /30点	MMSE : 24点以上 HDS-R : 21点以上 ADL上の障害を踏まえて総合的に判断する。 ※家族や本人からもの忘れの訴えがあるが,上記検査で記憶障害が明確でない場合は以下の検査を実施する。	<input type="checkbox"/> 基準値内 <input type="checkbox"/> 基準値に満たない ⇒S-PA,WMS-R,RBMTのいずれかを実施する	
		HDS-R : /30点			
	S-PA	総合判定 :	※総合判定が「異常」であっても,必ずしも記憶障害を意味するものではない.検査中の様子などを含めて判断する。		
	WMS-R	言語性記憶 指標 :	記憶障害がない 指標85以上	<input type="checkbox"/> 基準値内	
		視覚性記憶 指標 :			
		一般的記憶 指標 :			
遅延再生 指標 :					
RBMT	スクリーニング点合計 : 点	記憶障害がない <39歳以下> スクリーニング : 8点以上 標準プロフィール : 20点以上	<input type="checkbox"/> 基準値に満たない		
	標準プロフィール点合計 : 点	<40~59歳> スクリーニング : 8点以上 標準プロフィール : 17点以上 <60歳以上> スクリーニング : 6点以上 標準プロフィール : 16点以上			
②半側空間無視	BIT 通常検査	線分抹消試験	点	35点以上	<input type="checkbox"/> 基準値内 <input type="checkbox"/> 基準値に満たない 基準値に達しなかった場合 見落とし/誤反応を精査し半側空間無視がなければ良い.ADL状況を踏まえて判断.
			秒	60秒以内	
		文字抹消試験	点	35点以上	
			秒	160秒以内	
		星印抹消試験	点	52点以上	
			秒	100秒以内	
		模写試験	点	4点	
線分二等分試験	点	8点以上			
描画試験	点	3点			

評価内容	検査法	点数		基準値	判定
③注意・ 処理速度 等	TMT-J	Part A	正常・境界・異常	A・B両方が「正常」または「境界」 ※70・80代は60代の所要時間判定表を用いる。 ※A「異常」、B「正常」・「境界」の場合は再検査。 ※B「異常」の場合は符号を実施する。	<input type="checkbox"/> 基準値内
		Part B	正常・境界・異常		<input type="checkbox"/> 再検査
	TMT-J 再検査	Part A	正常・境界・異常	「正常」または「境界」 ※70・80代は60代の所要時間判定表を用いる。 ※Part Bが「正常」・「境界」であればAが「異常」 でも構成能力に関する評価へ進んでも良い。	<input type="checkbox"/> 基準値に満たない
	WAIS-IV (符号)	評価点：		健常者平均-2SD以上（評価点4以上） ※-1SD以内（評価点7）であれば健常者と変わらない 能力を確実に有すると考えられ、総合的判断の参考と できる	<input type="checkbox"/> 基準値内 <input type="checkbox"/> 基準値に満たない
④構成能力	WAIS-IV (積み木) または Kohs立方体	評価点：		明らかな構成障害がなければ良い。	<input type="checkbox"/> 基準値内
		IQ：			<input type="checkbox"/> 基準値に満たない
⑤遂行機能	BADS	BADS 全般的区分：		「境界」以上 ※総合的パフォーマンスとして成績を捉える。	<input type="checkbox"/> 基準値内
	または FAB	FAB：	/18点	明らかな遂行機能障害がない。 ※総合的パフォーマンスとして成績を捉える。 ※11あるいは12点以上であれば正常との研究もある が、今回の学会マニュアルには明記されていない。	<input type="checkbox"/> 基準値に満たない
⑥総合的 判断	病歴 画像所見 神経学的所見 ADL等			①～⑤の検査結果に問題がない。 ADL等に支障が出ていない。	<input type="checkbox"/> 検査成績としては健常者と同等かそれに近い <input type="checkbox"/> 検査成績としては健常者と同等かそれに近いが ADLや訓練場面に不安あり <input type="checkbox"/> 現時点では運転を控えるべき

4, 実車運転評価について

※実車運転評価は原則として指定自動車教習所にて実施しますので、異業種間で十分な連携が必要です。

【安全性及び必要性】

- ・医学的評価や神経心理学的評価をもとに、実車可能なレベルであるかどうかの判断が必要です。実車評価の意義・目的を多職種、対象者とともに共有した上で実車評価の是非を決めましょう。

【教習所との連携】

- ・所属施設、教習所いずれかに実車評価の実績がなければ、まず協力の要請を行った上で必要な確認と調整（費用、実施手順や方法）を確認しましょう。

【対象者への説明】

- ・教習所利用料金は医療保険外であり、実費負担であることと、個人情報の提供について了承をいただきます。

【教習所への情報提供】

- ・障害特性、実車評価の目的、評価結果から予測される運転への影響など、実車評価を行う際に必要な情報をわかりやすく伝えましょう。

「押さえておきたい！運転再開支援の基礎知識」より抜粋

※実車運転評価は、教習所教官と医療関係者がそれぞれの専門的視点から評価し、総合的に判断します。運転の可否判断を教習指導員に求めるものではありません。

実車運転評価シート の例 ～その①～

自動車運転評価票<教習所指導員評価>

場内

氏名： _____ 様 評価日： _____ 年 月 日

項目	詳細内容	未実施	改善せず	改善ムラあり	指導後改善	良好
車の乗り降り	○ドアの開閉、乗り降りの円滑さ	0	1	2	3	4
発進までの準備・駐車措置	○発進後、発進までの準備	0	1	2	3	4
	○駐車後、降車までの安全措置	0	1	2	3	4
一周コース	◎適切な走行位置（直線路・カーブ）	0	1	2	3	4
	○カーブ手前のブレーキ操作	0	1	2	3	4
交差点（信号を含む）	◎信号（含矢印）の認知	0	1	2	3	4
	◎対向車への対応（特に右折時）	0	1	2	3	4
	○適切な走行位置	0	1	2	3	4
	○適切な速度調節	0	1	2	3	4
障害物の側方通過	○進路変更時の合図と確認	0	1	2	3	4
	○対向車の有無の確認、距離の把握	0	1	2	3	4
	◎障害物との側方間隔	0	1	2	3	4
	◎指導員の指示した間隔の確保	0	1	2	3	4
車線変更	○車線変更のタイミング	0	1	2	3	4
	◎車線変更先および後続の状況把握	0	1	2	3	4
一時停止場所	○滑らかな進路変更	0	1	2	3	4
	◎標識・標示の見落とし	0	1	2	3	4
	○停止位置での正しい停止	0	1	2	3	4
見通しの悪い交差点	○確実な停止	0	1	2	3	4
	◎見通しの悪い環境への理解と対応	0	1	2	3	4
	◎左右の安全確認の分散	0	1	2	3	4
狭路（S・クランク）	◎確認の深さ	0	1	2	3	4
	○安定した速度調節	0	1	2	3	4
	○車体内側・外側への注意分散	0	1	2	3	4
	◎立体障害物との視空間認識	0	1	2	3	4
方向変換（バック駐車）	○通過可否の判断	0	1	2	3	4
	◎速度調節	0	1	2	3	4
	◎周囲への注意（確認）分散	0	1	2	3	4
	◎複数の行為が同時にできるか	0	1	2	3	4
身体機能に応じた特別課題 ※	◎切り返し（左右の空間認知バランス）	0	1	2	3	4
	()	0	1	2	3	4
	()	0	1	2	3	4
その他	注意力： 良好 不十分（ひとつのことでいっぱい・会話が崩れる）					
	集中力： 良好 不十分（後半に崩れあり・波がある）					
	理解力： 良好 不十分（何度も指導を要す・図での説明を要す・模範を要す）					
	判断力： 良好 不十分（場面により遅さや誤りがある）					
	感情面： 終始安定 ムラあり（怒る・悩む・怖がる・落ち着かない）					
	疲労： なし 後半あり（ 分後に疲労があり運転に影響 ）					
特記事項	① 過去の講習内容 1. 路上講習 2. 場内講習 3. 場内実施後路上講習 4. その他 担当指導員： _____					

※身体機能等に応じて選択して実施する

自動車運転評価票<教習所指導員評価>

路上

氏名： _____ 様 評価日： _____ 年 月 日

項目	詳細内容	未実施	改善せず	改善ムラあり	指導後改善	良好
走行位置	◎正しい走行位置	0	1	2	3	4
標識・標示	○標識等の認知とそれに従った走行	0	1	2	3	4
交差点（信号を含む）	◎信号（含矢印）の認知	0	1	2	3	4
	◎対向車への対応（特に右折時）	0	1	2	3	4
	○適切な走行位置	0	1	2	3	4
	○適切な速度調節	0	1	2	3	4
	◎死角部分に対する注意（左折時）	0	1	2	3	4
歩行者・自転車・駐車車両の側方通過	◎右左折先の横断歩道等への注意	0	1	2	3	4
	○進路変更時の合図と確認	0	1	2	3	4
	○対向車の有無の確認、距離の把握	0	1	2	3	4
車線変更	◎側方通過時の安全な間隔と速度	0	1	2	3	4
	○車線変更のタイミング	0	1	2	3	4
	◎車線変更先および後続の状況把握	0	1	2	3	4
一時停止場所	○滑らかな進路変更	0	1	2	3	4
	◎標識・標示の見落とし	0	1	2	3	4
	○停止位置での正しい停止	0	1	2	3	4
見通しの悪い交差点	○確実な停止	0	1	2	3	4
	◎見通しの悪い環境への理解と対応	0	1	2	3	4
	◎左右の安全確認の分散	0	1	2	3	4
狭い道路	◎確認の深さ	0	1	2	3	4
	○カーブミラーの活用	0	1	2	3	4
	○道幅に応じた速度	0	1	2	3	4
	◎車体左右への注意（行き違い時）	0	1	2	3	4
その他	◎避讓場所の判断（行き違い時）	0	1	2	3	4
	注意力： 良好 不十分（ひとつのことでいっぱい・会話が崩れる）					
	集中力： 良好 不十分（後半に崩れあり・波がある）					
	理解力： 良好 不十分（何度も指導を要す・図での説明を要す・模範を要す）					
	判断力： 良好 不十分（場面により遅さや誤りがある）					
	感情面： 終始安定 ムラあり（怒る・悩む・怖がる・落ち着かない）					
疲労： なし 後半あり（ 分後に疲労があり運転に影響 ）						
特記事項	担当指導員： _____					

※路上教習が可能か否かは各都道府県の状況、教習所の方針等により異なります。

※実車評価を計画する際には運転免許センターへ相談してください。

「高次脳機能障害を有する運転免許保有者の運転再開に関する調査研究委員会報告書」より

運転評価表

実車評価日：令和 年 月 日

受講者氏名 _____ 様

評価項目	内容	困難	ムラ有り	問題なし	
車の乗降	安全確認	1	2	3	
発信準備	シート調節	1	2	3	
	シートベルト装着	1	2	3	
	ミラー調節	1	2	3	
	エンジンをかける	1	2	3	
発進時	安全確認・合図	1	2	3	
	アクセル	1	2	3	
運転中全般	速度調節	1	2	3	
	車間距離	1	2	3	
	ハンドル操作	直進	1	2	3
		カーブ	1	2	3
		交差点	1	2	3
	ブレーキ操作	カーブ	1	2	3
		交差点	1	2	3
	道路変更	安全確認	1	2	3
		安定性	1	2	3
	右左折	安全確認	1	2	3
ウインカー		1	2	3	
車線変更のタイミング		1	2	3	
巻き込み確認 (左折時)		1	2	3	
横断歩道・交差点	速度・位置	1	2	3	
	安全確認	1	2	3	
危険時の反応	配慮	1	2	3	
	アクセルとブレーキを激早く切り替えられる	1	2	3	
	注意	1	2	3	
信号・標識・標	理解	1	2	3	
	遵守	1	2	3	
	信号・標識・標示をを守り、運転できる	1	2	3	
停車時	合図	1	2	3	
	駐車・車庫入れ	1	2	3	
総合	集中力	1	2	3	
	注意力	1	2	3	
	判断力	1	2	3	
総合	危険予測	1	2	3	
	感情	1	2	3	

※異業種間での連携では、互いに分かりやすい評価表が必要です。

運転技能を測定する機器が使用されることもあります。



GPSとモーションセンサで何がわかる?

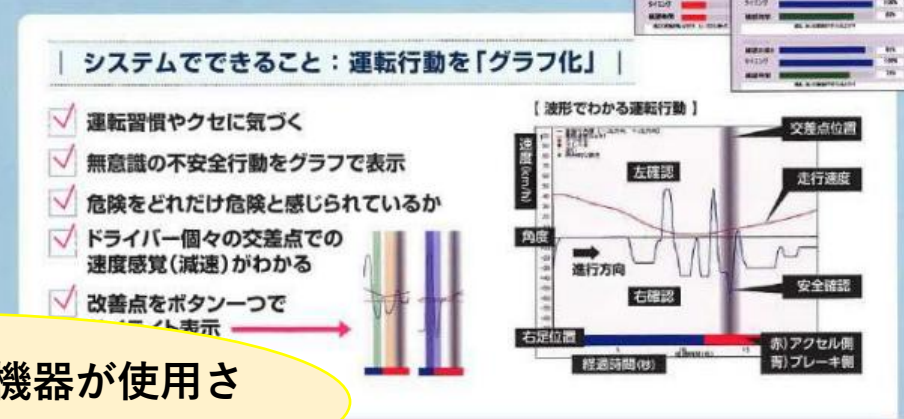
▶ 運転者の安全行動に対する考え方がわかる

- ✓ 走行速度: 交差点への進入速度
- ✓ 走行の方向: 方向 / 回数 / タイミング / 確認時間 / 確認の深さ
- ✓ 右足の動き: アクセル / ブレーキの踏みかえるタイミング
- ✓ 自動車の動き: 走行軌跡 (地図上で軌跡がわかる)

足センサ (足)

車載センサ (車)

顔センサ (顔)



5, 運転再開が困難と判断された方への 支援について

< 運転免許証の自主返納 >

- ・ 本人の意思で運転免許証を返納する制度。
運転免許証の有効期間内に返納することが条件。

< 運転経歴証明書 >

- ・ 運転免許証を自主返納した方は発行を申請できる。
- ・ 公的な身分証明書として利用できる。

< 各自治体における免許証の自主返納支援事業 >

- ・ 栃木県における 高齢者自動車運転免許証自主返納サポート事業 については栃木県HP (www.pref.tochigi.lg.jp/c03/2021jisuyuhennnou.html) で確認できる。

お問い合わせ

- このパンフレットに関するお問い合わせは以下にお願いします

<https://forms.gle/9iXppLyJJZPTLoDR8>

ご意見・ご感想もお待ちしています！



おわりに

自動車運転は交通状況を把握し、「認知」「予測」「判断」「操作」が要求される高度な作業活動であり、健康であっても一定のリスクが伴う作業です。

我々作業療法士は運転支援に関して基礎的な知識を有したうえで十分に配慮し、関連職種と連携して取り組む必要があります。基礎的な知識を整理し、他職種や他機関と連携をすすめていく為の資料としてこのパンフレットをご活用ください。

また、県内の作業療法士が協力し、よりよい支援の仕組みを作っていけるよう、今後も取り組んでいきたいと考えておりますので、ご理解の程よろしくお願いいたします。